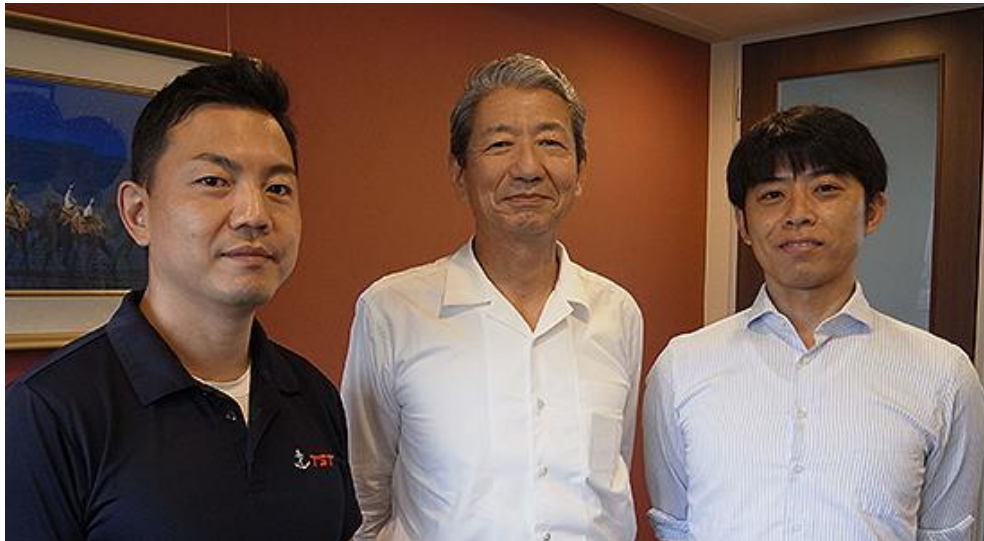


2021年7月14日

## 西ア・欧州・アジアで総合海事サービス 太洋産業貿易、「ナナミ・ SHIPPING」設立



今田社長（中央）と、ナナミ社のディレクターを務める今田取締役（左）、木本部長（右）

船舶管理業の太洋産業貿易（本社＝横浜市、今田圭介社長）は欧州、西アフリカ・ガーナの企業とともに新会社「ナナミ・ SHIPPING（NANAMI Shipping BV）」を設立し、総合海事サービスを展開する。欧州、西アフリカ、アジアをつなぎ、総合物流サービスや船舶管理関連サービスなどを幅広く提供していく。太洋産業貿易の今田社長は「“ラストフロンティア”と称されるアフリカの中でアクセスの遅れている西アフリカに先んじてサービスを提供し、日系企業が安心して進出を進められるように全面的にバックアップしていく」と語る。

ナナミ・ SHIPPINGは太洋産業貿易のほか、鋼材の取り扱いに強みを持ち倉庫なども保有するベルギーのフォワード、スチールダックス社（STEELDUXX）、ポルトガルの総合海運企業エテ社（GRUPO ETE）、ガーナで海運代理店業やフォワーディング業を展開するセブンログ社（SEVEN LOG）がそれぞれ25%ずつ出資する。本社はベルギー・アントワープで、このほか親会社の拠点がある日本、ポルトガル、ガーナにも拠点を置く。各社から2人ずつディレクターを派遣し、太洋産業貿易からは今田俊充取締役と木本卓麻企画部部長が新会社のディレクターを務める。

太洋産業貿易は船舶管理業を基盤に、海技を用いて周辺分野でもサービスを提供できる企業体を目指しており、その中で2019年春にアネカ社（現・スチールダックス社）、セブンログ社とコンソーシアムを結成。アフリカ、欧州、アジアを結ぶ事業展開に向けて準備を進めてきた。これら3社に、船舶保有・運航、フォワーディング、ターミナルオペレーション、代理店、修繕事業など総合物流を展開するエテ社も参画して、4社で新会社を設立。「エテ社が参

画したことで、修繕を含めてサービスの幅や地域的なカバレッジが広がった」（今田社長）。

ナナミ・ SHIPPINGの事業分野は、チャーターリング、アフリカ内陸輸送を含めたフォワーディング、テクニカルサービス、船舶管理関連サービス、代理店業、コンサルティング。各参画企業が拠点を置く日本、フィリピン、ベトナム、中国、ベルギー、ポルトガル、ガーナ、ブルキナファソ、コンゴ、モザンビーク、ウルグアイ、コロンビアを直接カバーするとともに、4社の提携会社を通じてさらに幅広い国・地域のサービスに対応する。

ガーナなど西アフリカではインフラ整備に用いられる材料・資材や発電設備、プラントなどの輸送需要が見込まれることから、在来船における各社の知見と経験を重量物輸送、バルク貨物輸送などに生かす。食料などの輸送需要も見込む。西アフリカ向けのみならず、アフリカ、欧州、アジアを結ぶ物流需要に対して、海上輸送のみならず、内陸への通関や輸送、倉庫保管を含めて、ドア・ツー・ドアのサービスをワンストップで提供していく。大口の貨物だけでなく、FCL・LCLや航空貨物など小口貨物にも対応する。

船舶管理や海上技術を用いたテクニカルサービスも幅広く提供する。これは太洋産業貿易が得意とする分野で、同社から新会社のアントワープ本社に木本氏と、重量物船などの乗船経験のあるフィリピン人海技者が駐在し、各拠点と連携して対応。船舶管理のほか、ポートキャプテン業務や荷役の立ち合い、コンディションサーベイなどの需要にも対応する。「エテ社が参画したことで、同社のエンジニアや修繕ヤードを通じて提供できるサービスの幅が広がった。日本の船主も海外船社との取引が出てきており、大西洋で運航される船も増えている。船舶管理のみならず、船舶管理において必要な物資の物流のお手伝いも含めたトータルサービスを活用いただける。西アフリカに行く日本の船が増えてくる中で、現地でお困りごとに対応できることは、船舶管理業務において大きなことだと考えている」（今田社長、今田取締役）。

また、ポルトガルや西アフリカの周辺水域には日本の水産関係の船舶も展開しており、そのような船舶への補給やサービスにも対応していく考えだ。

アフリカで事業を展開する上で、改めて贈賄への一切の非関与を徹底。「プラント分野など日本企業が関わるビジネスも出てきており、決しておざなりにできない部分だ。それを大前提に、最終目的地まで完全に貨物を届けるサービスを展開していく。日本ブランドへの期待は大きいものを感じる」（今田社長）としている。



プロジェクト貨物輸送